

未来へつなく、みやざきの海のバトン



日知屋小と海のリレープロジェクト 第1回目のプログラムを実施

2026年5月21日(木) 【場所】日向市日知屋小学校 6年生の皆さん



概要

「海のリレープロジェクト」は、日向市教育委員会と連携し、日向市立日知屋小学校の6年生31名を対象に「日知屋小と海のリレープロジェクト」をスタートしました。

本プロジェクトでは、『豊かな宮崎の海を未来へ残していきたい』という想いのもと、5月から7月までの期間、複数回にわたって校外学習や実体験、専門家による講話など、多彩なカリキュラムを通じて海の現状を学習します。

■海のリレープロジェクトの目的と学習の進め方について説明

第1部：オリエンテーション 古田とわ（MRTアナウンサー）

まず初めに、オリエンテーションとして、プロジェクトの目的や「なぜ今、海を学ぶのか」を子どもたちに伝えました。最初は少し緊張気味だった子供たちですが、プログラムの中に地引網体験や水族館見学があると知ると、目をきらきら輝かせていました！これから一緒にたくさん海について学んで行きましょうね！



■宮崎の海の魅力や役割など、海に関する基礎知識を学ぶ

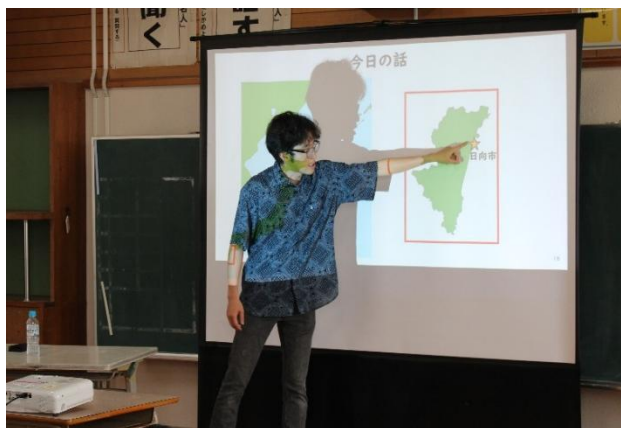
第2部：座学『宮崎の水辺のはなし』 緒方悠輝也 氏（宮崎大学農学部 研究員）

続いて登壇されたのは、宮崎大学農学部研究員であり、魚のスペシャリストとして知られる緒方悠輝也（おがた ゆきや）先生です。緒方先生は、宮崎の海や川を舞台に魚類やサメの調査に日々取り組まれています。授業の冒頭では、先生自らが発見した新種の魚のエピソードや、研究員という仕事の醍醐味について、情熱を交えて自己紹介をしてくださいました。

本題の授業では、「宮崎や地元・日向の海はどのような場所か？」という基礎的な問いからスタート。以下のような、宮崎の海の知られざる特徴を分かりやすく解説していただきました。

『日向や門川の海は、湾状の地形であることから多くの魚が集まりやすい絶好の環境。特に門川の海は、栄養をたっぷり含んだ泥が堆積しやすく、多種多様な生物を育む豊かな土壌となっている。さらに、この泥によって生じる適度な「濁り」が魚たちの格好の隠れ家となり、外敵から身を守りながら安全に成長できるという、生命を育む上で大きな利点を持っていること。』などを教えてくださいました。

こうした恵まれた環境があるからこそ、日本初記録の魚が約10種類も発見されるなど、全国的にも極めて希少な海域であること。児童たちは、自分たちの暮らす地域の海が持つ圧倒的なポテンシャルと魅力について、深く学びを深めていました。



■初回の子どもたちの様子

第1回目の学習が無事に終了し、学習メモには、学習を通して気づいたこと、心に残ったこと、そして「なぜ?」「どうして?」という素直な疑問が、びっしりと書き込まれていました。

今回の学びで得た気づきや感動を次回以降の学習へとつなげていくことで、子どもたちの「海」への関心や理解は、さらに深まっていくことでしょう。一人ひとりの感性を大切にしながら、次回からも豊かな学びの時間を積み重ねていきます。

■次回の学習

第2回は6月10日(水) 9:10~10:50 日知屋小学校で行います

今回は、宮崎大学教育学部の西田伸教授をお招きし、『海の環境変化と生物多様性』について学びを深めます。

西田教授は、イルカやクジラといった野生生物のDNAを解析して、その進化や歴史を調べています。

当日は、日向灘に打ち上げられたイルカ・クジラの貴重な骨格標本が教室に登場。

実物の迫力を間近に感じながら、海の生き物たちの不思議と生態について詳しく教わります。



緒方 悠輝也 先生 (おがた ゆきや)

宮崎大学農学部 研究員



石本 健一朗 先生 (いしもと けんいちろう)

日向市立日知屋小学校 6年生担任



古田 とわ (ふるた とわ)

MRT 宮崎放送アナウンサー



本プロジェクトは、“海”を次の世代へリレーしていく取り組みです。

宮崎が誇る豊かな海を未来へ受け継ぎ、30年後、50年後、そして100年後も変わらぬ海を守り続けることを目指しています。海洋教育プログラムやビーチクリーン活動、情報発信などを通して、地域社会と連携しながら、“海”という名のバトンを未来へつないでいきます。

mrt宮崎放送